



日本—江蘇 travel
日本から直行便！今すぐ出発しよう！

日本—江蘇往復直行便インフォメーション

往復地	航空会社	航空便曜日
東京—南京	東方航空	毎日
大阪—南京	東方航空	毎日
	吉祥航空	毎日
札幌—南京	東方航空	毎週水、木、日
沖縄—南京	吉祥航空	毎週木、日
名古屋—南京	吉祥航空	毎日
茨城—南京	青島航空	毎週月、木
大阪—常州	吉祥航空	毎週月、水、金
大阪—南通	深セン航空	毎日
	中国国航	毎日
名古屋—南通	深セン航空	毎週火、木、土、日
大阪—無錫	深セン航空	毎週の月、水、金曜日
	中国国航	毎日
大阪—揚州 / 泰州	春秋航空	毎週月、木、土

TIPS

上記に掲載されるフライト情報は、各航空会社から提供され、状況により、毎週変化する可能性があるため、詳しくは各航空会社までお尋ねください。

往復地	航空会社	航空便曜日
名古屋—無錫	吉祥航空	毎日
	深セン航空	毎日
札幌—無錫	深セン航空	毎日
	中国国航	毎日
大阪—徐州	祥鵬航空	毎週火、木、土 (チャーター便)
大阪—連雲港	海南航空	毎週月、水
静岡—連雲港	東方航空	毎週火、木、金、日



観光情報

心ゆくまでたのしめる美しい江南水郷—江蘇省

2020年
1

+
味わいが尽くせない塩の町
古い路地に隠れた
淮安の風格
煙花三月 揚州に下る
宿遷の多様な文化
を楽しむ旅
文化的な南通
詩情豊かな春日の中江
春日に江蘇へ
スローライフを尋ねる

当季のイベントのオススメ
観光商品のオススメ
日本—江蘇往復
直行便インフォメーション

春の太湖
春季の泰州垛田の楽園へ

カメラでカラーの
周囲を記録する
連雲港に来て
ユニークな山海の旅を味わう

盐城中華シフゾウ園

江蘇省東部の黄海沿いにあり、2019年に世界自然遺産に登録された。ここは世界最大の麋鹿（シフゾウ）保護区であり、世界最大のシフゾウ野生種および世界最大のシフゾウ遺伝子バンクを有する。シフゾウ園内の川が縦横に流れ、干潟が静寂、花が赤くて草が青く、キバノロが走って鳥が鳴き、自然環境が美しく、シフゾウ種群と珍しい鳥獣が飛び交い、壮大で原始的な自然の風景画を構成した。



場所：塩城市大豊区川東鎮

泰州
千島菜の花
碧水黄花の万ム絵巻——千島菜の花



場所：泰州興化市缸顧鄉東旺村

CONTENTS

2019年夏季刊・目次

都市特集

- 01 味わいが尽くせない塩の町
- 04 古い路地に隠れた淮安の風格
- 07 煙花三月、揚州に下る

文化 & 生活

- 10 宿遷の多様な文化を楽しむ旅
- 14 藍と白が交じり合う
文化的な南通
- 17 詩情豊かな春日の鎮江

旅行目的地

- 22 春日に江蘇へ
スローライフを尋ねる

観光攻略オススメ

- 25 カメラでカラーの
周莊を記録する
- 28 連雲港に来て
ユニークな山海の旅を味わう
- 31 春季の泰州垛田の楽園へ
- 34 春の太湖四月が最も美しい

観光商品のオススメ

- 当季のイベントのオススメ
- 日本—江蘇往復直行便



南通の翡翠のネックレス -- 濠河

濠河は通州(南通市の古名)の堀であり、千年の歴史がある。長い歴史の中で、都市の発展、土地の拡張に伴って、堀は外敵に抵抗する機能を失って、かえって千年の間に変化して南通の美しい景勝地になった。15キロの濠河はひょうたんの形をしており、南通の翡翠のネックレスのようである。春風が吹いて、依然としてきれいである。

ENJOY

味わいが尽くせない塩の町



塩城は中国東部の沿海地区に位置し、中国春秋戦国時代から塩作りを初めており、その後長い発展の歴史を経て塩城という名前で呼ばれる事となった。

食塩は国家運営にとっても非常に重要な資源の一つであり、昔から人々の日常生活には欠かせないものであった。また、塩業は国家の経済発展にも大きな役割を担っており、盐城にある十大塩場はこの都市の繁盛体现してきた。

盐城では塩業が絶える事なく続けられ、その長い歴史の中で豊かな海塩文化が育まれ、塩城人と海塩の親密な関係性を作り上げた。

串場河景観帯

中国の各時代の統治者達は治水に尽力を注いできた。灌漑農業の拡大と、運河を使った交通の利便性を高め商業の発展を推し進めた。

盐城の串場河は築堤から始まり、塩業の発展とともに、都市を貫く母なる河へと発展し、現在では塩の歴史と文化をその中に溶け込ませた串場河景観帯と呼ばれるようになり、観光名所



の一つとなっている。

他にも「塩字広場」、「煮海祭宗」、「八卦塩田」など七大観光スポットがあり、芸術的表現で串場河畔の海塩文化の歴史を表現した展示物などがあり、「親水・スローライフ」、「余暇・ハッピーライフ」、「意趣・ニューシティ」と三つのゾーンがあり、それぞれに盐城の都市の記憶が表現されている。

新鮮な海風を吸い込み、海塩文化をゆっくり感じたり、お茶や食事の後に串場河畔を散歩して、地元のお年寄りが楽しそうにおしゃべりしている様を眺めたり、とても楽しい体験があなたを待っている。

中国海塩博物館

水流が塩を運び、物語を生み出し、深い文化を蓄積していった。塩場の物語と塩文化は口承だけではなく、一つ一つが中国海塩博物館の

所蔵されている。博物館はその都市の魂と言わるよう、盐城の「前世今生」を知るには、博物館を訪れてみるのが一番直接的な方法である。

中国海塩博物館は人工の運塩河 -- 串場河と宋代（960年～1279年）の有名な堤防 -- 範公堤の間に位置し、中国で唯一の海塩歴史を紹介する大規模な博物館である。外観は銀白色で正六面の塩結晶の紋様がデザインされており、まるで塩の結晶が串場河に散りばめられたように見え、海塩の「結晶美」を十分に演出している。館内には海船の模型があり、中国海塩文化の歴史の流れを体感することができる。他に「生命のパートナー」、「史海塩踪」、「煮海の歌」と「塩と塩城」などのテーマで、日常生活や工業と塩の関係、塩業発展の歴史、沿海の塩民の製塩方法と生活文化を一つ一つを展示している。



海塩博物館ではただ写真と文字の展示だけではなく、人形や、彫刻、砂盤などの生き生きとした豊かな展示方法で海塩生産と塩民生活の文化を表現しており、海塩に纏わる数々の伝説などを見ることが出来る。

鹽鎮水街

どの都市にもその都市の特色や趣の物語が、レンガや瓦にたっぷり詰まったような街があり、盐城の風情は鹽鎮水街に詰め込まれている。ここは静かで喧騒とは無縁の場所で、一枚の落ち葉、星ひとつ、一筋の陽光、戯曲の一節に、生命の美しさを宿している。

鹽鎮水街は、名前の通り塩が生み出した小鎮で、水辺に作られた街である。ここでは遊覧船に乗って、薄霧漂う抜群の雰囲気の中で青磚黛瓦、亭台樓閣の2つの美しい建築物を鑑賞し、ゆっくりと「漂舟戲苑」「老周茶社」、「翰墨閣」、「水雲閣」を通って、塩商屋敷 --- 大宅門へ着くことができ、また観光コースに沿って、商店街を周りながら、淮劇を聞いて、茶屋で春の新茶を飲んで、小雨の中で盐城の水郷風情と海塩の歴史文化の面影を感じる事も出来る。

盐城は塩によって作られ、塩によって名声を高め、塩によって繁栄した、盐城は海塩文化の源であり、中国海塩発展史の縮図である。長い塩との歴史が染み込んで、この都市の味にもしっかりと染み込んでいる。





古い路地に隠れた 淮安の風格

淮安は江蘇省中北部に位置し、古淮河と京杭大運河の交差点にあり、古運河の水運の歴史書にはその名前が大きく書かれており、悠久の歴史と濃厚な歴史の積み重ねにより、“半分が古跡、半分が湖”と美しい言葉で称されるようになった。

WUZHENG

文化は都市の魂であり、記憶は都市の根っこである。淮安の古い路地を散歩すれば、歴史の風雲や歳月の流れを感じ、この古都の新しい様相を知る事が出来る。

河下古鎮

河下古鎮は淮安区の西北の隅にあり、その歴史は2500年前まで遡る事ができる。京杭大運河の開通後、南北の交通の要所となり、明(1368年-1644年)、清時代(1616年-1912年)には既に大きく繁栄していた。その為河下には明と清時代の建築風格が多く保存されている。河下古鎮は江南地区に属していないが、最も江南水郷の特色である風光明媚で古朴な静けさを有した場所となっている。

古鎮の中心までは一筋の石板路が伸びており、両側には瓦屋根と青壁の民家が立ち並び、現在でも地元の人々が生活をしており、この地に代々受け継がれてきた生活文化を見せてくる。

長い歴史の間、南北文化が交わり合う場所にあった影響で、河下には独特な飲食文化が育



【古都の風格】



まれ、淮陽料理の発祥地の1つとなり、また中国では誰も知る無形文化財の茶馓を生み出すに至った。茶馓とは小麦粉を伸ばして細い麵筋にし、ぐるぐると輪っかに巻いて、油の中で揚げる菓子で、香ばしくサクサクとても美味しい。

もし街の喧騒や熱気から少し距離を置きたないと感じたら、河下古鎮での半日はあなたにぴったりでしょう。南から北へぐるっと歩いて回りながら、古鎮の伝統的な美食を食べながら、時を超えた長閑さを体験してみよう。

駢馬巷

駢馬巷は鎮淮樓にあり、歴史書によると宋の時代(960年-1279年)には既に老淮安の名所として有名であった。街角には清時代の牌楼が強く古色古香を漂わせ、周りのお店などは現代風になっているが、至るところに時間を超えた歴史の面影が隠れているのが分かる。路地では青壁に瓦屋根、下には青石板の路が伸び、そよ風が漂い、風雨はその色を無くし、過去の喧騒はなく静かで温かい雰囲気が残されている。

駢馬巷は淮安で最も古い路地の一つで、現在でも沢山の歴史の爪痕を見ることが出来る。路地には地元の人々の生活が溢れおり、麻雀を楽しむ音や、子供を寝かせる子守唄、ゆったりとした淮劇など大人も子供も混じったのんびりとした生活が根付いている。



淮安の長い歴史物語は一代一代と人々の思い出の中のみに生きているが、現在も残る旧居は、この街を静かに見守り続けている。

吳承恩故居

吳承恩は中国明時代に傑出した文学家である。名前を聞いてもピンと来ない人もいるかもしれません、「孫悟空」と言われると知らない人は居ないのでしょうか?吳承恩は淮安にて「西遊記」という奇書を書き上げ、孫悟空というキャラクターを生み出した。

吳承恩の故居は河下古鎮にあり、運河を背にした古朴で優美な青壁の住居で、4つの区画と26の部屋、庭園と裏庭、円周回廊、筑山などがある明時代の園林式の建築となっている。裏庭は“悟園”と呼ばれ、仏教用語である“覚悟”的意味があり、子供時代の吳承恩はこの場所で両親からおとぎ話を聞かされ、青年期にこの場所では、創作し、休憩していたと言われている。悟園の中を歩けば、西遊記の不思議な世界の一端を見る事が出来るかもしれない。

〔名士印記〕

周恩来故居

周恩来は1898年淮安に生誕、中国最初の総理になった。青年時代は日本へ留学し、帰国後は中国近代の革命に青春を捧げた。

周恩来の故居は駒馬巷にあり、この事によりこの路地は国内外に名前を知られる事となった。

故居は東西に二棟に分かれた住居で、大小合わせて32部屋あり、典型的な清時代の蘇北民居となっている。室内は当時の状態が保全されており、居内には昔ながらの井戸や樹齢100年の樹木あり、落ち着いた静かな雰囲気となっており、訪れた人に過去の物語を伝えている。

人は誰も心の中に思い出の路地を持っており、青壁、瓦、低い屋根、歳月の移り変わりが、沢山の物語を残していく。老街の街角でお茶を飲みながらおしゃべりや孫の子守をしたり、古路の入り口から出口まで、日常の生活がそこにある。





千年来、沢山の文人墨客が揚州の山や湖景に魅了され、数え切れない賞賛をお越し、揚州を詩が染み込んだ都市に作り上げた。瘦西湖の清い美しいさ、大明寺の悠遠な禅、また大運河の壮大さは、文人達の詩を通じて人々に新しい魅力を教えていた。

瘦西湖景区

瘦西湖の神韻は“瘦”の字にあり、瘦西湖の幅が変化する事や、生き生きとした様が、まるで美しい淑女のように、纖細でしなやかさの中に恥じらいを持っているようだと言われている。

瘦西湖は単なる湖ではなく、千年の歴史を持つ文化都市の揚州を完璧に具現化した存在であり、自然、湖、人文建築を融合した完璧な存在として捉えられている。

何世代にもわたり熟練職人たちが、一本の木や草、瓦の一枚まで詳細に拘り入念な仕上げをしてきた事で、現在の優雅で美しい姿となった。

春の瘦西湖は四季の中で最も穏やかな風景を見せ、南門から入り歩道を通り、煌めく波光の中、徐園、五亭橋、熙春台、二十四橋、洛春堂、簪花亭などの亭台楼閣が桃の花と緑の柳の中に巧みに配置されており、歩きながら見る角度を変えていくことで、違った美しさを見せ飽きることが無い。

揚州大明寺

瘦西湖の北門から北へ五分ほど歩くと揚州大明寺に着く。揚州大明寺は蜀岡中峰にある仏教廟宇で文化古跡でもある。園林と建物が一体化した景観は、“淮東一番” “揚州一の名所”と言われている。

揚州大明寺には清時代に植えられた一株の瓊花があり、300年以上の樹齢を持ち、現在でも毎年春になると旺盛に大きな花を咲かせ、蝶のような姿の花が、温かい春風の中、ゆらゆらと風にそよぎ、絶景を作り出す。

鑑真大師はかつて大明寺の住職で、後に伝道師として日中両国の文化交流に突出した大きな貢献をした。1973年中国の著名建築家である梁思成氏が中国唐代の寺院建築として大明寺を参考にし、大明寺内部に鑑真記念堂を建造した。記念堂には鑑真大師

の楠木坐像があり、壁には大師の渡海様子を表した布画や、西安の大雁塔、肇慶の七星岩、日本九州の秋妻屋浦、奈良唐昭提寺金堂の四つのシーンが展示されており、鑑真大師の生活や経歴を見る事が出来る。

大明寺にある平山堂も見逃せない場所である。静寂に包まれた堂前には古藤が蔭を複雑に絡み合せ、立派な芭蕉、大広間の入り口の屋根には“平山堂”と大きな三文字の標札がある。平山堂の美しい竹林の間には文人の遺物が至るところにあり、忘がたい思い出を作ってくれるだろう。

揚州運河三湾風景区：中国大運河、桜、バードウォッキング

北には瘦西湖、南には古三湾。古三湾とは中国大

運河の揚州三湾段の事で、現在は揚州運河三湾風景区となっている。ここでは三湾運河が蛇行しながら流れ、2つの大橋が両岸に架かり、広大な野生湿地帯が横たわっており、揚州の文化的な優美さに自然の美を付け加えている。

春の三湾風景区では、一年の中でもっとも生気溢れる季節で、桜の海をゆったりと散歩しながら、春風吹く湿地帯と森林が調和した生態系をじっくり体験できる。森林ちかくにはバードウォッキング小屋があり、保護区の中で飛び交う貴重な鳥を眺めることができる。運河と揚州文化が完全に結合した絶景の中、遠くには雄大な津山があり、三湾を俯瞰する風景はまさに自然が作り上げた素晴らしい絶景を心ゆくまで楽しむ事が出来る。





旅行中、目は心のままに路上のあらゆるシーンを捉え、捉えられた風景は心で感じ取られる。都市はそれぞれ沢山の魅力があり、旅行中に触れ合った文化は旅を終えた後も、回想して楽しむことができる。冬が過ぎ、春が訪れ、また新しい1年、宿遷はいつも変わらない。



清王朝の乾隆皇帝は江南を6回訪れ、宿遷に5回滞在し、「天下一品の山河の春」に感嘆し、その都市に美名を与えた。宿遷は南北に黄河と長江の2つの水源を持つ非常に重要な地理的特徴を持つ。霸王項羽の故里としても有名で、またお酒とクリスタルガラスの産地としても名高い。

霸王を探して

日本での人気の高い西楚霸王の項羽は、宿遷の梧桐巷で生まれ、長い月日の中で、現在ではこのあたりは大きな街となっている。項府、項園、将署、項羽の故居、項家の靈廟、霸王古今館、虞家の老宅.....項羽の出生から幼年期、そして虞姫との恋愛まで、すべてがこの場所に物語と出会う。

中国北部の建築物は壮大な雰囲気の物が多く、反対に南部建築は優雅で繊細な物が多く

い。項王故里は宮廷と園林建築が巧みに融合しており、徹底して漢楚の風格を表現している。建築物は冷たく人間に距離感を与える感じではなく、景区毎に様々な演出が準備されている。開門の歓迎展から始まり、伝統衣装を着た情熱的な役者が酒壺、酒盃を持ち歓迎の儀式で旅行者を迎えてくれる。

虞家铺子の前では、賑やかな西楚の市が再現されており、時間を超えて当時の人々の日常生活を体感できる。項府では楚式の結婚式が再現した催しがあり、楚国の伝統文化一杯の興味深いイベントとなっている。また項府劇場では鴻門演技が行われ、劉邦と項羽の激しい戦いの物語が舞台で繰り広げられ、楚風の美しい伝統衣装が優雅に舞い踊る。

項王故里では、千年の時を経ても尚、歴史の風骨は西楚建築に刻まれており、西楚霸王の声が少しづつ聞こえてくるようである。



酒香を探して

宿遷人はお酒好きな人が多く、豪快な飲みっぷりで有名で、宿遷人にとってお酒は生活に不可欠な要素となっている。また宿遷には重層で濃厚な酒文化があり、早くは唐時代（618年～907年）に洋河大曲（お酒の名前）は既に有名で、現在でも洋河酒は中国名酒の一つとなっている。

宿遷の酒文化を垣間見るには洋河酒工場見学が最適で、洋河鎮では様々な種類のお酒が酒香を漂わせ、春の趣を更に盛り上げている。

秀麗な山と水がある所では名酒を醸すことができる。古代から洋河を流れる美人泉は洋河人の生命の泉で、柔軟さの源でもある。美人泉畔はこのあたりで最も賑やかな場所で、泉が酒を産み、酒が街を栄えさせ、酒房、酒樓、茶屋、伝統演劇場など、様々な店舗が立ち並び、酒売りや売



子などが忙しく商売し、非常に賑やか。地下にある酒蔵は洋河酒工場の見どころで、中国白酒の地下宮殿と呼ばれ、ここには長年寝かされている古酒だけではなく、洋河酒の文化が受け継がれてきている。大規模な醸造所では、職人たちが調合などの仕事をしており、穀物が時間の経過と共に、まろやかな白酒に変わっていく工程を見ることが出来る。お酒が好きな人は試飲をする事も可能ですが、洋河酒は強いお酒なのでほどほどに。



輝きを探して

宿遷は珪砂の上に立つガラスの街としても有名で、原料となる豊富な石英が存在するだけではなく、中国の近代日用ガラス企業はここで生まれ、中国ガラス産業の発展が始まった。100年以上前に当時の人々が古い砂鉱の基礎の上に新しいものを組み合わせる原則に従い、晶世界ガラス美術館を作った。旅行者に砂鉱の角度から見た世界を一粒の砂となって旅する過程を見ることが出来る。

美術館では、ガラスの源、ガラスの誕生、工場物語、科学イノベーション、アート・デザインの5つのエリアに分かれており、ガラス現在の採掘から製錬までの全行程を紹介されているだけではなく、テクノロジーを使った様々なマルチメディアな表現方法で、様々な角度から石英の微妙な性質、LEDタッチスクリーンの空間で時間を超えて、ガラス製錬

溶鉱炉工程を見たり、ピアノ廊下、魔幻ガラスの床、マジックミラーなど、様々な楽しい設備が揃っている。またガラス吹きの演出や照明演出などを近距離でガラスの芸術品が生み出される様を見学することが出来る。

訪れた人に様々な忘れない印象を残す宿遷は、重厚な歴史、特色ある建築物、他には無い様々な風景を持ち、ガラスの様にキラキラ輝いている。





藍と白が交じり合う 文化的な南通

南通は江蘇省東南部に位置し、上海と長江を隔てて向かい合う。臨水の小さな町は多くの自然景観を持つている以外に、中国科学文化教育の歴史上の大きな変遷を裏付けた。南通は中国近代史において、中国最初の師範学校及び民間博物館、紡織学校が設立した場所である。



春風十里、まだ少し肌寒く、春日の最初の陽光が大地に降り注ぐ頃、南通へ足を運び、その悠久の伝統文化を感じてみませんか。藍と白が交じり合う南通文化を是非体験してみてください。

藍印花布

藍印花布は、南宋時代(1127-1279年)から始まり、染付職人は石灰、米糠などの原料を黃粉と混ぜ、新しい染色技術を発明した。紡織業の発展に伴い、南通藍印花布の染紗、染布技術が次々に生み出されていった。南通は河と海に面し、気温的にも藍印花布の原材料としての綿と藍草の成長に適している。

藍印花布は全て手作業で作られ、紙を刻んだり、糊取り、染め等の手順で素朴な花布は染め上げられる。図柄は民間伝承の中に出てくる人物から取つてくる場合が多く、また動植物や花や鳥の吉祥図柄などもあり、人々の美しい生活への憧れが絵に変えている。

藍印花布の柄は藍地に白い絵柄、白地に藍の柄など、シンプルな二色だけでつくられ、純朴で絢爛な芸術性を有している。



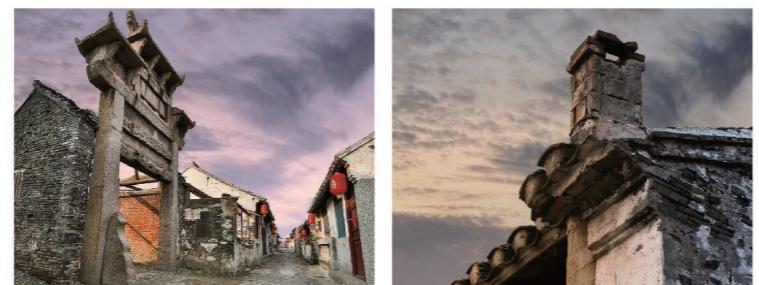


藍印花布博物館

藍印花布はかつて“天下一品の染織物”という人気であったが、徐々にその勢いは衰え、手作業の染色技術は現代工業の染め技術に駆逐されていく。しかし中国工芸美術の大家である吳元新が藍印花布の伝承と発展に尽力し、伝統的な藍印花布の保護や革新的な図柄や装飾物、教育に貢献し、その努力を通じて、南通に藍印花布博物館が創立された。

南通藍印花布博物館は美しい濠河風景区にあり、1997年の創立以来、中国民間芸術や無形文化遺産の宣伝と保護というミッションを掲げ、何千何万もの作品や資料を収集し、沢山の素晴らしい民間工芸品を保存している。

館内は5つのエリアに別れ、それぞれ違ったテーマで、インラクティブに藍印花布の歴史と文化を展示している。藍印花布の作品展示、発展の歴史、制作工程などを見ることができ、体験コーナーもあり昔からの染付作業を体験できる。



余西古鎮

余西は千年前の文字が記録された歴史的な古い町で、現代的な南通に隠れているが、千百年の重厚な人文の沈積をずっと支える。余西の先祖は戦火を避けるために、全族をここに移住した。豊かな財力をもたらしただけではなく、藍印花布の伝統工芸をここに持ってきた。一時、余西の染坊は先祖の希望を支えて盛んに発展した。余西古鎮も藍印花布の発祥地となった。

余西古街に足を踏み入れると、記憶へ多くの忘れられた歴史の欠片が入り込むようである。龍街にはたくさんの店があり、杜義茂絹布莊、曹恒興油坊、黃家染坊、杭立興紙坊…どこでも町の繁華時代の跡を展示されている。迎江門の埠頭に行くと、ぼんやりと往来する船に商人とたくさんの貨物を積まれて、にぎやかな交易の盛況を見たようである。

今の余西古鎮は落ち着いて、繁栄の都市と林立なビルから遠く離れており、全く心を煩わされない青磚黛瓦、街道縦横のところを切り開いた。暇の時、仕事などをほったらかしにして、余西古鎮に何日間住んでいて、世間の喧騒から離れて、質朴な古い街を感じて、ゆっくりとしたリズムの生活を味わう。

夕日が西に沈んで、古い町並みを歩き、夕日の残照が古い家を照らしていて、前世代の生活を語っているようである。よく考えてみると、この世の中のさまざまは、藍印花布の青と白の二つの色のように複雑であり、簡単でもあり、華やかであり、素朴でもあるだろうか。熱い南通跳面を食べて、ふんふんとよいにおい余西の肉まんをいくつか買って、この春の夕方に、世間の悩みはこれからあなたと関係がなくなる。

鎮江は江蘇省で有名な観光都市である。東西南北に面し、北は海面したこの町はまさに絵に書いたような情景に囲まれ、その恵まれた環境は中国でも名高い。



鎮江の歴史は資料によると3000年以上前まで遡る事ができ、長い歴史と深い文化が蓄積された都市ある。また鎮江は、書道でも有名な都市で、沢山の著名書家の碑刻がある焦山や書家の大家である米芾を記念して作られた書道公園、そして米芾が“都市山林”と呼んだ南山等、鎮江の歴史は書道歴史といつても過言ではない程に書道と密接に関係した文化を持っている。

焦山の碑刻

焦山は“鎮江三名山”的一つで、古朴で優雅な姿を持ち、長江で唯一周りを水面に囲まれ、かつ観光で訪れる事の出来る島嶼である。山自体の大きさは他の名山に比べると地味であるが、この山の最大の特徴は“江南一碑林”と呼ばれるほど焦山碑林が現存している点である。焦山碑林は摩崖石刻と碑林に構成され、摩崖石刻とは焦山西側の崖に残した多くの名人達の碑刻、碑林には中国古代からの書道、芸術、歴史資料等の内容は様々な要素を多く含んでいる。その為、焦山は“書道の山”とも呼ばれる事があり、その中でも最も名高いのが“碑中の王”と言われる『瘞鶴銘』である。これは一人の隠者が死んでしまった鶴を思い残した文章

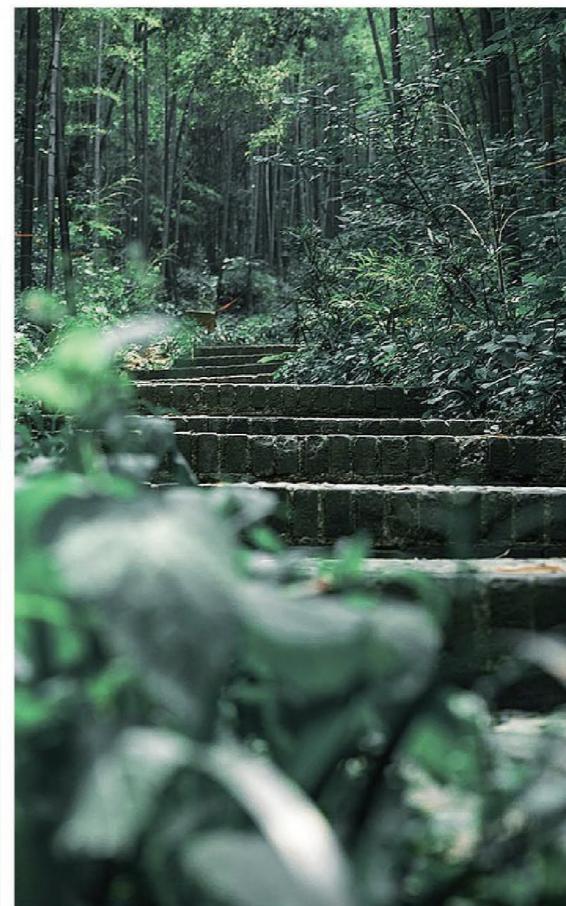


で、左から右へ書かた筆は雄健で、歴代の書家達に深い影響を与えた。

古刹の梵音、沢山の古碑、古木は青々と茂り、焦山は春に色に染められ、水面の中できらきらと輝く。フェリーに乗り焦山に足を踏み入れば、寺院の楼閣が緑の山林に映える、独特の景色があなたを待っている。

米法山水・米芾書道公園

米芾は北宋時代の書画家で、山の大体の形や木の枝幹を墨のぼかして作り、その上に墨の点を重ねて書き上げる方法で、「米点山水」派を作った。彼は書道界にも造詣深く、様々な書体を使いこなした。米芾は鎮江の丹徒で40年余り暮らし、書画の研究を通じて芸術の最高峰に達し、黄鶴山にて永眠についた。この鎮江と深



い歴史的な関係を持つ巨匠を記念し、米芾書道公園が作られた。

米芾書道公園は中国で唯一書家の名前が付けられた文化テーマパークで、十里長山等の自然の景観を利用して作られている。ここでは米芾の書道を鑑賞すると同時に、時空を越え対話しながら彼の芸術と通じていく事が出来る。書道公園の目玉は「一廊九館」と呼ばれる、墨細工を使った回廊で、全長680メートルの曲がりくねった形になっており、米芾の作品が沢山展示されている。長廊は9つの展示エリアとつなぎ、1300余りの宋拓米帖、明拓米南宮帖及び新刻丹徒米帖が陳列されている。

2009年には丹徒区と故宫博物院が共同で「米芾書道全集」を出版、故宫博物院より提供された米芾の墨跡資料に基づいて、原本のサイ



ズの「新彫丹徒米帖」64作品が復刻された。

心地よい春風が吹く4月、名家の書画を鑑賞ながら、素晴らしい文化体験をしながら、春景色あふれる公園で心地よいひと時を過ごしてみよう。

都市山林・南山

鎮江市内から南に行けば、山に囲まれた青々しい緑あふれる南山に東屋や楼閣、そして竹林と泉、静かな風景が広がる。多くの文化人がこの秘境を愛し、北宋の大書画家の米芾、米友仁父子も四十年間この場所で生活をした。景区入り口にある“都市山林”四文字は米芾の真跡で、そして彼はこの場所を“霧雨南山画集”と呼び愛した。また、蘇軾など多くの文人名家も南山を訪れ、ここに住み着いたり、観光を楽しんだりしながら、この場所に古跡や名作を残していく。現在でも“竹林聴泉”や“招隱聴鹂”などの傑作の中にある古き南山の風景を見る事が出来る。

現在の南山は招隱区、竹林景区、黃鶴山景区、九華山景区、そして広大な原始林と果実園、茶園などが広がり、360種類以上の樹木と花、80種以上の鳥類等の豊かな自然があり、お茶を楽しんだり、泉に咲く花を鑑賞したり、果物狩り、洞窟探検、バードウォッチングなど様々な楽しみがあなたを待っている。

揚州 瘦西湖景勝地

瘦西湖は江苏省揚州市に位置して、1本の曲水は錦の帯のようで、悠々と6キロメートル流れて、沿岸の色とりどりの庭園をつなげており、揚州の最も代表的な観光スポットである。いわゆる「煙花三月下揚州（霞と花の三月に、揚州に下って行く）」で、毎年春に瘦西湖を訪れ、人々の心に沁みる美しさに感銘を受ける。





春日に江蘇へ スローライフを尋ねる

・KOUSO・

江蘇へ行ってみよう。
忙しい仕事を一休みして、
穏やかな春風心地よく、上品かつ素朴な江蘇で、
仏教に触れ禅を知り、
自然と文化の癒やしを心ゆくまで楽しむ。
江蘇で自分だけの春日を見つけてみよう。

66

河と湖そして海が縦横に集まり、数千年の繁栄と発展を経て、
そして伝承されてきた素晴らしい文化が保留された。江蘇では自然の雄大さ、
名匠が作り上げた庭園などの幅広い歴史文化を鑑賞することが出来る。
また淮揚料理に代表される様々な美食、壮大な運河など、
どれを見ても必ず満足する事が出来るでしょう。

99

常州東方塩湖城

常州東方塩湖城は中国道教の一番の聖地で“第八洞天”と呼ばれる中国茅山にある。道教名山の茅山には“山、水、茶、塩、薬、泉”と6つの自然の恵みが文化と融合し、天人合一の道教世界を産み出した。

常州東方塩湖城の主要景区には魏晋時代風の建築物が採用されており、足を踏み入れれば、時間を越え現代と古代が横断世界を散歩しているような気持ちになるだろう。



震雷場から朝の鐘の音が響く祭儀場の景色、逍遙閣では“江湖盛宴”的食事ショー、
塩宮の“吉塩聖地”的演劇ショー、三口茶の講談、武養館の“嘻哈道”カンフー喜劇から離光小舞台の“遠古之光”的歴史ショーなど盛りだくさんの見どころがあり、お腹いっぱいになるまで文化体験を楽しむ事が出来る。

無錫拈花灣

仏教の“拈華微笑”という禅宗典故のように、心に伝わる文字や言葉で伝えられない事象がある。拈花湾はその名前にふさわしく、山と湖に恵まれた禅の世界が広がり、耳、目、心から禅の境地へ誘われていく。

拈花湾の建築物は唐・宋時代風の物が主で、古朴優美である。その中にある香月花街は禅をテーマにした街となっており、エリア内には茶道、華道、香道及び禅修会館等のいやしの場がある。

また、仏教をテーマにした彫刻など、禅をテーマにした宿など、隅々まで禅ティストで彩られている。

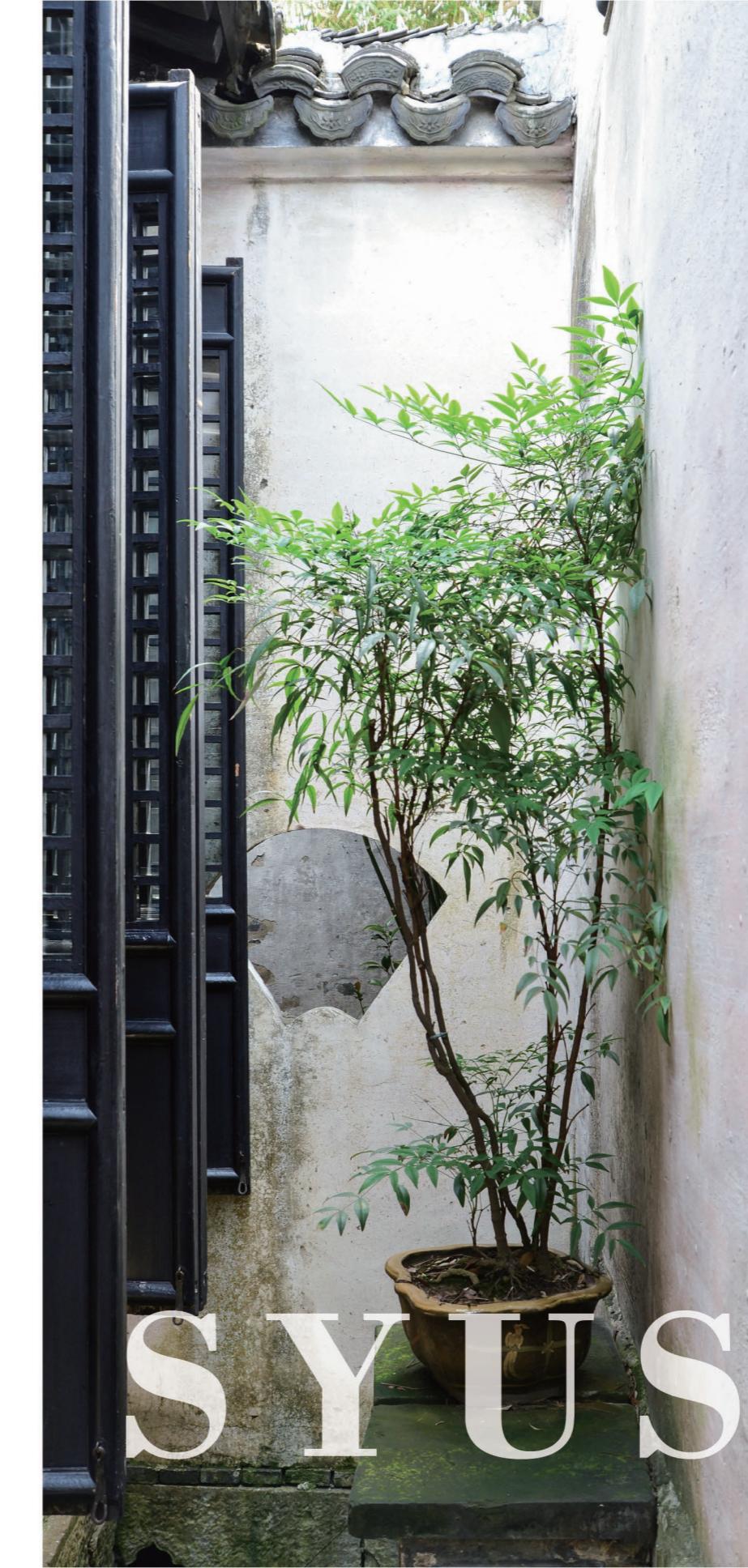
禅とは一種の修行であり、また一種の心境でもある。拈花湾の妙音台では“静かな写経”体験も可能で、禅衣と香炉、そして筆と紙を用意して、心静かに写経を楽しみ知恵、修身を体得しながら、しばしの間、世間の喧騒から離れてみよう。

**徐州呂梁山**

徐州は中国で最も早い時期に出現した城邑を持った町である。裏庭として呂梁山には、自然豊で古跡なども多くあり、文化的にも優れた。毎年春には花が満開になり、辺りは霞がかったように花や緑でいっぱいになる。その春の中を古跡を探しながら散歩するのはとても特別な体験となるでしょう。

呂梁山風景区に名勝古跡がたくさんあり、山水名勝でも人文古跡でもある。鳳前村には孔子観道亭があり、言い伝えによると孔子がこの場所を訪れた際に、この場所の自然を讃えたという話があり、現在でもそれら自然の多くが残されている。

呂梁山景区は典型的な山水が組み合わさった景観で構築されており、“青山”“碧水”“奇石”“遺跡”等、名高いものが多くある。春には万物が目覚め、気候は穏やかで、絵画のような風景が色がり、足を踏み込めば桃源郷へと誘われる。都会の喧騒から離れ、呂梁山で自然の息吹を味わい、心と身体をゆっくりと静かに勞ってみよう。



SYUSOU

周莊を記録する カメラでカラーの

江南の春の美しさを表現できる言葉は無い。心を空にし、ゆっくりと散歩し、静寂な空間に足を踏み入れ、時間の温もりを周莊で感じてみよう。周莊は江南の小さな町で、町の中には百近くの古民家と60以上の煉瓦彫刻の門楼と14本の古い小橋があり、古典的な江南水郷の姿を有している。周莊を訪れたなら、こここの本当の穏やかな生活を体感することが出来るだろう。



【カメラでカラーの周莊を記録する】

千人の読者があつての千個のハムレットと西洋の諺にあるように、人も人によって受け取り方は違つてくれる。周莊の美しさも人によつて目に映る美しさは変わつくる。ある人は陽光と朝霧の中の周莊、あるいは霧雨降る中、爽やかな微風吹く周莊。あるいは夜色の周莊の中に美しさを見つける。あなただけのカメラに収めてみよう。



【春風を浴びて】

春の周莊はロマンチックな風車の季節。春風が五色の風車を回し風鈴を鳴らすと、憂いのない子供時代を思い出させる。ダンボールを使ったDIY 風車と風鈴作り体験もあり、ハサミと紙を使って自分だけの風車を作る事が出来る。

手作りの風車を持ち、暖かい風を受けながら、草木の香り漂う柔らかい土の田んぼのあぜ、蜂や蝶が飛び交い、光り輝く黄金の菜の花、カメラを手にこの感動的な瞬間を撮影してみよう。

周莊の春は素晴らしい風景だけではなく、この



時期には沢山の美食があなたを待っている。青団子には爽やかな草の香りで春の匂いを一杯に含み、またスズキやエビも一番美味しい時期、そしてアオサやヨコナメ、たけのこと金華ハムを使ったスープ“腌笃鮮”など素晴らしい春の美味を揃っている。新鮮な食材には無限の春が詰まつていて、口に含むと味蕾の上に花が咲く。



往来する小舟は立ち寄る港に活気を分け与えていく。温かい陽光とそよ風を受けゆらゆら揺れる小舟に乗り、ゆっくりと進む舟の中から見る古鎮の風景。舟娘の歌声を聞きながら、古い小橋の下を通り抜け、オールを漕ぐ水紋が碧々とした水面に伸びていく。

河岸を散歩すれば、古い街並みに沿って民家が並ぶ路地に入していく。水郷の風味を色濃く残した青石の路地に白壁と瓦屋根の街並みを散歩すれば時間はゆっくりと停まつていて。歩き疲れたらお茶屋に入りジャスミンティーを飲みながら、どこからか漏れ聞こえて来る講談に耳を傾けてみよう。

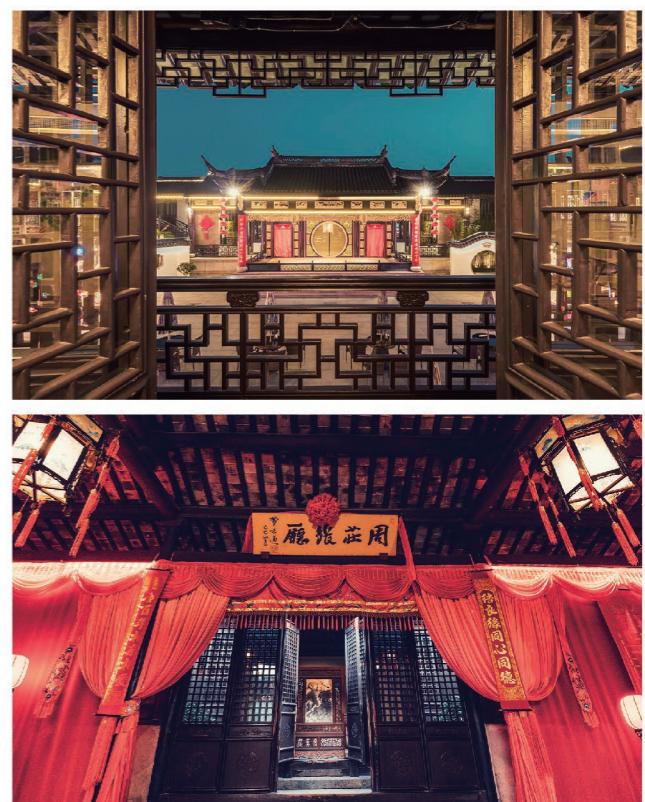
周莊には至るところに春の喜びがある。河畔に咲く野花、街角の壁にある苔、瓦屋根から伸びる草、春の色は周莊に散らばつていて、あなたが探しに来てくれるのを待つている。

夜の帳が降りてくると、周莊は色とりどりの光の帯になる。オールを漕ぐ音とライトアップされた街が古鎮の熱氣と寂しさを混ぜていく。

張庁で水郷の伝統的な婚式を見たり、古劇台での古典演劇を楽しみ、一杯の阿婆茶と茶菓子を味わう。他にも“四季周莊”という4D 体験ができるシアター、1086 慢生活街区ではおしゃれなカクテルバーや露天焼き肉や民謡バンドショー等があり、賑やかさと静けさの 2 つの顔を持つ周莊を楽しむ事が出来る。カメラを片手にあなただけの周莊の夜を楽しもう。

夜が深くなり、水郷は眠りにつく。眠りの中で江南の夢を見て、周莊の思い出を心に刻む。

【古鎮で遊ぶ】



【夜影を楽しむ】

RENUNKOU 連雲港に来て ユニークな山海の旅を味わう

春の連雲港市は淡く海風の匂いに満ちている。
美しい港が秀美な山、川、島に囲まれ、
白いカモメが青い海をかすめ、
港に停泊する汽船が新年の希望をのせて出帆する…
簡単なバッグを持って、山と海との間に行って、
一味違う不思議でロマンチックな旅に行こう。



海上の雲台山は昔から神話と伝説の東海の仙山であり、三面は海、一面は山、連綿と続く山々が青々としていて、景色が美しい。ここには中国で唯一無二の山海と奇峰——二樞尖があり、「東土第一寺」と称される法起寺があり、中国最大のトウキササゲの樹林が生育しており、非常に珍しい山海の景色と人文の遺跡を持っており、「東海第一勝境」と呼ばれている。雲海散歩をしたり、雲の離合集散を観たりして、まるで仙境に身を置いているようである。

{早朝} 茶摘みと花見

法起寺の晨鐘が鳴ったかと思うと、雲台山の石林に春日初めての一縷の曙光が落ちた。大自然の鬼斧神工で彫刻された石はそびえ立って、姿が千差万別でおり、仙桃石、觀音石、万巻經書石、神龜石などの奇石の景観は驚嘆させる。林立する怪石の間には、高くてまっすぐそびえ立っているトウキササゲの樹林が生えている。トウキササゲはまた小葉梧桐とも呼ばれ、鳳凰の止まるところであると伝えられている。ちょうど

満開の時期、鐘の形をしたトウキササゲの花は鈴なりになっていて、薄紫やピンクの色をして、桟道の両側に大きな雲霧のように咲いている。透き通った鳥の鳴き声とともに、茶摘み人はかごを背負ってその中を歩き、茶摘みの道へ行った。

雲霧茶は雲台山の「三宝」の1つであり、巻いた形が秀麗で、いれた後に色が明るくて、香りが濃厚である。雲台山には醴泉井という名の井戸があって、400年以上も干上がったことがない。井戸の中の泉水は透き通り甘くて美味しい、雲霧茶をいれて、飲むと味わい尽くせなく、長寿をもたらす効果がある。そのほか、山中の土地が肥えて、葛根、山芋、ユリなど栄養価の高い植物が根を下ろしている。収穫になると、葛根で作った葛粉、山芋を入れたお粥、ユリで作ったスープを食べて栄養をつける。春風がこの靈山仙境を吹き渡って、ほのかな花の香りと希望の息吹を吹きつけてくる。万物が勢いよく生長し、怪石と花海が艶やかさを競って、遠くを眺めると、トウキササゲの花の海が延々と続き、とりわけ感動的である。





{ 昼時 }
山登りして名所旧跡を探索する

階段に沿って石林の奥に進んで、自然の新鮮な酸素を気持ちよく呼吸する。翠竹の中に千年の歴史を持つ悟道庵があって、環境は極めて静かである。これは「雲台七十二庵」に残っている唯一の古寺であり、雲台山地域で最も古い仏寺の一つでもある。庭には二本のイチョウが茂っていて、古い話をしているようである。悟道庵から少し離れたところに、仏教の名刹である法起寺がある。日本の高僧である円仁和尚はここに足跡を残し、日本に帰ったあと、書いた『入唐求法巡礼行記』が雲台山の風土と人情を描き、唐代の海州（今の連雲港市）の対外交流における美談を作り上げた。

雲台山景勝地は輝かしくて悠久の文化遺産を持っているだけではなく、自然景観はもっと奇特である。約2キロメートルの深い谷は万寿谷と呼ばれ、峡谷内の断崖絶壁には、仏光崖、沐仏台など十数か所の奇石の美しい景色がある。「蓬壺仙境」と呼ばれる二樅尖に登って、雲霧の中の雄大険峻な山脈が天まで続き、彩霞が広い海面を照らし、東方の港、山海の風景が

一望の中に収めており、その間を歩いて、この青山碧水、幽谷奇石、島嶼海港で構成された不思議な風景を感嘆せざるを得ない。

{ 夕方 }
散策しながら海を聴く

夕風がそよそよと吹き、湿った海風が吹いてきて、何羽かのカモメがのんびりと海辺を歩き回る。雲台山の北の最高峰の大樅尖に沿って北へ下りると、一面の独特的な建築群がある。洋風、和風、中華風の家屋はそれぞれ特色があって、青い木々の間に隠れて、一味違う風情があっており、ここは悠久の文化を持つ連雲港の古い町並みである。

古風の古い町並みを歩いて、老街歴史文化館に行って古い町並みの昔から今に至るまでの歴史を訪ねる。民俗工芸館に行って、職人たちの手芸を鑑賞する。隴海鉄道歴史博物館に行って、古い駅に関してどんな物語があるのかを聞く…この山海石の都市を行き来して、民国の古い町並みの歴史文化の重厚と移り変わりを感じ、疲れたままだ座って中華民国風のショーを見たり、民謡の弾き語りを聞いたりすることができる。夜になつたら、利民巷の美食の街に来て、港湾都市の美食を食べて、海風の中でビールを飲んで、本場の海鮮と野味を満喫して、食べ物の最も真実な楽しみを感じる。

千年の悠久の年月とロマンチックな山海を有する美しい港湾都市は、この趣に満ちた福地を生んで、山は海とつながって、海は天とつながって、不思議で夢のようで、これは海上の雲台山である。



垛春 田季の 樂泰 園州へ

興化は、泰州市にある2千年以上の歴史を持つ古城である。里下河の中部に位置し、範囲内に幹川と支川が縦横に交差し、蜘蛛の巣のように密集し、ほんとうにその地域の水郷である。興化は有名な「魚米の郷」であり、世界四大花海の一つである「千島菜の花」としても知られている。



ドヴォ
「垛」は里下河地区独特の農業景観である。歴史の記録によると、約750年前、興化地域では土が不足していたため、人々は湖沼に水中の土を掘り始め、掘り出された土が積み上げられ、長い間、耕作可能な垛田(掘り上げ田)になった。



千垛景勝地

千垛景勝地の観光の核心地域は約 30 万平方メートルで、一千の垛田を有し、大きさも様々で、形態も異なり、互いにつながっていない。見渡す限り、川が縦横に走っていて、一つ一つの垛田がまるで水面に浮かぶ島のように見え、この無数のホツツケが流れる垛田の奇観を形成し、「万島の国」とも呼ばれている。

毎年 4 月、春の花が満開する時、黄金色の菜の花が水に囲まれた垛田に咲き誇って、青空、碧水、「金島（菜の花が満開する垛田）」は美しい油絵を描いている。千島菜の花は一千の島で形成



された垛田の景観が全国的に知られており、「中国で最も美しい菜の花の海」と呼ばれている。世界的に知られているプロヴァンスのラベンダー畑、オランダのチューリップ畑、京都の桜と並び、世界四大花海にランクインした。

観光客は景勝地内の観光タワーに登れる。高くから遠くを見て、この黄色い花のかぶった奇観を概観して、春の「金色のハイレベルな写真」を撮る。あるいは櫓船に乗って、別の角度でこの金色の美しい景色を眺める。水面に浮き、垛田を行くと、まるで迷路の中にいるように、両側の菜の花が春風に揺れ、土や花の香りがときどき伝わってきて、心地よい。淡い暗香が混沌とした思いを覆い、この春色の中で、乱れた心を静かにさせ、この最も鮮やかな地色を心の底に凝結させる。



李中水上森林公園

興化市の市街地から遠くなく、都市住民が自然に回帰する憩いの場があり、それは李中水上森林公園である。1980 年代、地元の人々が合理的に荒野を開発するために、一つ一つの垛を掘り起こし、その上に水中に適した池のヒノキや水杉などの樹種を植栽した。30 年以上経って、10 万本余りの木々はすでに高くて茂って、生き生きとした水上の杉林に成長した。

園内には水量が豊富で、川が縦横に走り、「川がうねうねと流れ、水杉が林立している」景観となっている。水上森林公園を歩いて、園内の新鮮な空気を呼吸しながら、林中水巷、板橋棧道、歩雲橋などの観光スポットに行き、高い木が高々とそびえ立つて天を突くのを見て、現代の水郷の特色の

ある風景を鑑賞する。あるいは景勝地のいかだに乗って、密林を流れる川に沿ってゆっくりと渡ったり、林間の水辺に棲息する水鳥を驚かせてばたばたと飛び立たせたりして、野趣を味わうことができる。

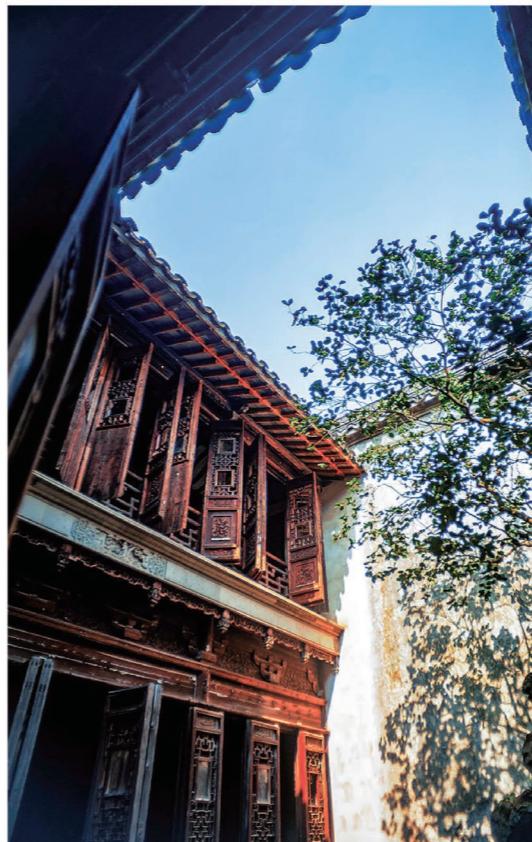
ここは野生動物の天国でもあり、フクロウ、マガモ、白鷺、クロカッコウ、アキクサインコ、オナガなどが営巣して生息し、夕暮れ時には百鳥が帰巣し、空を遮る光景が大変壯観である。

古人は生活の知恵を活かして、沼地を掘って田んぼを作り、現代の重要な農業文化遺産を残してくれた。また、垛田もこの古い水郷を美しく飾りつけて、ここの水をもっときれいにして、木をもっと青くして、空をもっと蒼くして、城をもっと美しくさせている。



春の太湖 四月が最も美しい

春の4月に、風光明媚で春色が多く変わり、暖かさと希望が共存する。蘇州の太湖の岸沿いに、湖と山の風景が麗しく、波がきらきら光って、暖かい陽が映えて、最も美しい四月に春の歌を奏でる。



春の太湖は情熱的で陽気で、雲が少なく良い天気であろうと、小雨が降ってそよ風が吹く天気であろうと、その輝きは消えない。滔々と流れる碧水、行き交う船、美しい景色が太湖の山水間に点在している人文古跡に照り映えて、まるで美しい江南の山水絵巻となっている。

東山

東山は東洞庭山とも呼ばれ、太湖の中に広がる半島で、3方位が水に囲まれ、見渡す限り湖が天とつながっている。まず見るべき美しい景色は中国江南では珍しい山麓湖畔の庭園 – 啓園である。啓園は、蘇州の庭園の秀麗で精緻な気質を包容していると同時に、豪放磊落な気迫もあり、太湖のほとりの庭園の精緻な趣をいっぱい含んでいる。啓園を出て環湖公路に沿って行けば、陸巷古村に着く。陸巷古村は現在中国江南地方の建築群の中で品質が最も高く、最もよく保存されている古集落で、「一街六巷」の明代の建

築構造で特色に満ちている。陸巷古村は明代の宰相である王鏊の故里でもあり、彼のために建てた三元牌坊も拝見する価値がある。石畳の坂道がくねくねとした村の中に、生活の息吹が濃く、夕陽が沈むたびに、一輪の赤い太陽が古い町並みを照らし、とても壮観である。

「江南第一楼」と謳われた東山彫花樓も見逃せない。それは蘇州市吳中区の建築彫刻の代表作であり、全階の梁、桁、柱、軒にレンガ、石、木彫と鋳鉄の装飾が配合されており、浮き彫りの内容は豊富で、技法は優れていて、寓意は深く、江南の現代建築の中でこの一例しかない。

東山は中国十大銘茶の一つである洞庭碧螺春の原産地である。疲れたら茶舎を探して、東山のミネラルウォーターをとり、今春新しく作ったお茶をいれて、心に染み入るお茶の香りが暖かい風に伴って、とても心地良い。

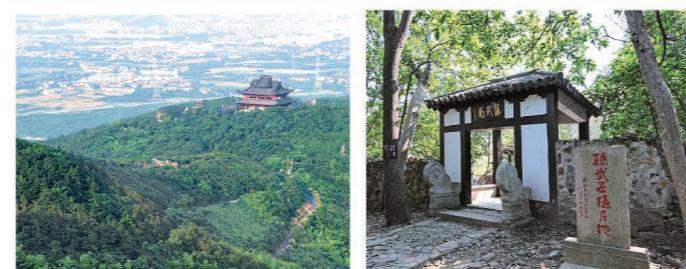
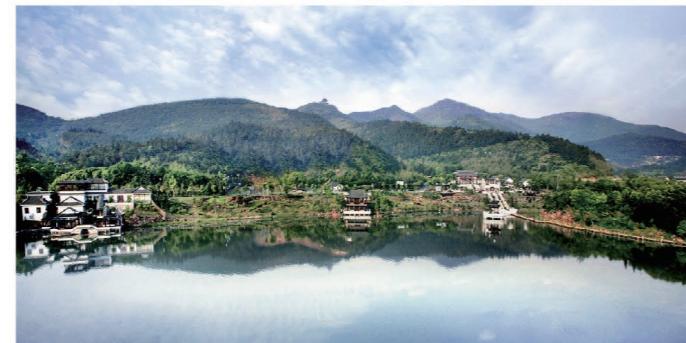
西山

西山は西洞庭山の略称で、東山と湖を隔てて向き合っているが、景色はずいぶん違っている。西山は湖中の群島、湾の山水、山中の谷、山頂の山々の四種類の風景を持っていて、そして群島の風景、花果のジャングル、呉越以来の古跡を誇っている。

「天下第九洞天」と呼ばれる林屋洞は、石灰岩の地下鐘乳洞である。大自然の鬼斧神工は洞内の曲がりくねっていて神秘的な光景を作った。時には広く、時には狭い道に沿って歩き、石室や隠れ泉などの景色が目の前に映った。林屋洞を出て林屋山に登って、鳥が巣に戻るのを眺めて、漁船と疎影、炊事の煙が風にゆらゆらと立ち上る。それは、西山の有名な景観--“林屋晩煙”である。

東、西湖とは違って壮麗な景色は石公山にあり、山の前に巨石があり、翁に似ていることから初めて石公と呼ばれた。石公山は高くないが、岩石は奇特で秀麗であり、山全体のコノテガシワが鬱蒼としていて、山の上には楼台殿閣が高低不揃いであり、一線天、明月坡、浮玉北堂などの景観を持っている。遠くを眺めると、天目山がそびえ立って起伏しているのが見えて、湖と山の風景はまるで山水絵巻のようである。

西山の主峰である飄渺峰は太湖七十二峰の第一峰であり、谷川は景勝地全体を貫き、近くに紫雲泉、仙人卓、望湖亭などの遺跡がある。太湖の上は風雲が変わりやすく、峰は常に雲や霧の中に隠れており、“晴れの日の縹渺たる山々”的景勝地がある。頂上まで登ると、太湖の3万6千頃(1頃=6.67ヘクタール)の春色を一目で見渡せる。



穹窿山

穹窿山は太湖の東岸に位置し、江南の山と川の重厚で柔らかな美しい共通性があると同時に、峻険で雄大な山の勢いもある。穹窿山は地相がよく、山の上にはムラサキイヌグス、シタン、フウなどが植栽され、見渡す限りは青々としている。

また、穹窿山は蘇州地域最大の「天然森林酸素バー」でもあり、空気中のマイナスイオンの含有量は1立方メートルあたり2万個に達している。春に山登りすると、草木のすがすがしい香りが春風に吹かれて、気持ちが晴れやかである。穹窿山に立って遠くの太湖の景観を俯瞰すると、遠遠で捉えがたい感覚が湧き上がってくる。太湖の水面の波はきらきらと輝き、まるで天からこの世に与えられた鏡のように、穹窿山という福地を照らしている。

穹窿山の歴史は古く、2000年以上の文化が栄えている。中国古代の大軍略家である孫子がここに隠棲し、中国史上初の兵書『孫子兵法十三篇』を著した。清代の乾隆帝も六回山登りして、数多くの逸話を残してくれた。孫武苑、朱買臣讀書台、望湖園、上真觀、寧邦寺、玩月台などの観光スポットを貫く全長12キロのつづら折りの山道は頂上まで直行できる。

都市の華やかさと喧騒より、太湖は碧水が天につながる盛景を持っている。天然の江南の山野の村落と滄桑のタイムスタンプは、人々の探索を待っている。



ツアーポイント
世界遺産・明孝陵を含む南京・揚州・鎮江の充実の観光地へご案内!!

南京・揚州・鎮江 美しき江南再訪の旅

日	都市名	時間	スケジュール
1	中部国際空港発 南京着	15:55 18:35 22:30	中部国際空港から空路、南京へ。<所要時間：約3時間10分> 南京到着後、現地ガイドと合流し、空港内レストランへ。 夕食後、ホテルへ。 ホテル到着 「南京 泊」
2	南京 揚州 鎮江	07:45 20:30	ホテルにて朝食後、【揚州観光】へ。 清代の乾隆帝が釣りを楽しんだ瘦西湖遊覧、揚州旧市街散策、鑑真和尚ゆかりの大明寺(長さ100メートルを誇る鑑真渡海図が見所)、鑑真記念堂(へご案内します)。昼食は揚州チャーハンなどの揚州料理をご賞味下さい。 昼食後、長江の港町・鎮江へ。 鎮江到着後、【鎮江観光】へ。渡船場として栄えた石畳と石造りの歴史ある町並み古西津渡街散策、固山公園、劉備と孫権が同盟を結んだ寺甘露寺、鎮江の名産品黒酢工場見学。 ご夕食は名産の黒酢を使った黒酢料理をご賞味下さい。 夕食後、ホテルへ。 ホテル到着 「鎮江 泊」
3	鎮江 南京	08:15 19:30	ホテルにて朝食後、【南京観光】へ。 革命の父、孫文の陵墓中山陵(祭堂・碑亭・陵園)、明の太祖洪武帝・朱元璋と后妃の陵墓・世界遺産明孝陵へご案内します。 ご昼食は市内レストランにて郷土料理をご賞味下さい。 蒋介石・宋美齡夫婦の別邸美齡宮、總統府、南京1912区、明城壁、孔子を祀っている寺夫子廟見学、秦淮河周辺の繁華街散策へご案内します。 ご夕食は塩水鴨などの南京料理をご賞味下さい。 ホテル到着。 <OP1>秦淮河ナイトクルーズ(おひとり様220元にて) 「南京 泊」
4	南京発 中部国際空港着	07:45 10:55 14:55	ホテルにて朝食後、専用車にて空港へ。 南京から空路、帰国の途へ。<所要時間：約2時間40分> 中部国際空港到着後、解散となります。

※ ツアーは阪急交通社より提供され、詳しい情報はホームページまでご確認ください。

3日間!

19,800円
~
29,800円出発日:
2020/2/26~2020/3/25

ツアーポイント

無錫・蘇州が効率よく観光頂けます!
 「初めての中国旅行」に、「上海は行ったことがあるけれど他の都市にも行ってみたい♪」お客様にもお薦めです。

無錫と蘇州常州を訪ねる旅

4日間!

39,800円
~
94,800円出発日:
2020/4/15~2020/6/17

気軽に江南7都市周遊5日間

日	都市名	時間	スケジュール
1	無錫	08:55 11:15 19:25	<p>関西発 常州着</p> <p>関西国際空港から空路、吉祥航空直行便にて常州へ。 常州到着後、市内へ。 観光前に、ご昼食『麺料理』をお召し上がりください。 昼食後、 「<<常州観光>> 北宋時代有名な詩人蘇東坡（蘇軾）がよく訪れた○東坡公園を散策。（約40分） その後、風光明媚な都市・無錫へ 「<<無錫観光>> 清の乾隆帝が6回も訪ねた○惠山古鎮を散策。（約30分） ご夕食は、麻婆豆腐などの『四川料理』をご賞味ください。 ホテル到着。</p> <p style="text-align: right;">「無錫 泊」</p>
2	蘇州	08:00 19:30	<p>無錫</p> <p>ホテル出発。 「<<無錫観光とショッピング>> 549年創建の古刹南禅寺※登楼不可。 700年以上の歴史がある無錫で一番古い橋清名橋を散策。 ☆太湖名産・淡水真珠の見学とショッピング 昼食は無錫名物スペアリブなどの『無錫料理』をお召し上がりください。 昼食後、蘇州へ。 「<<蘇州観光>> 2018年世界遺産に登録された三国時代の吳の孫權により舍塔として創建された盤門 2014年新しく登録された世界遺産京杭大運河 中国版ピサの斜塔虎丘（遠望約20分） ☆シルク店にて見学とショッピング 夕食は、松鼠魚など『蘇州料理』をご賞味ください。 夕食後、オプショナルツアー会場を経由してホテルへ。 ホテル到着</p> <p style="text-align: right;">「蘇州 泊」</p>
3	常州発 関西着	08:40 12:30 15:55	<p>常州発 常州空港へ。 常州空港から空路、吉祥航空にて帰国の途へ。 関西国際空港到着後、解散。</p>

* ツアーは阪急交通社より提供され、詳しい情報はホームページまでご確認ください。

日	都市名	時間	スケジュール
1	関西空港発 杭州着 無錫着	13:55 15:35 夜	<p>空路、ANA直行便にて杭州へ 着後、太湖で有名な無錫へ（所要時間：約3時間） 夕食は江南郷土料理をご用意</p> <p style="text-align: right;">「無錫 泊」</p>
2	無錫 蘇州 無錫着	朝 昼 午後 夕刻 夜	<p>無錫市内観光 【南禅寺、太湖湖畔散策、古石橋の清名橋、無錫名物淡水真珠店でお買い物】 蘇州料理の昼食後、蘇州へ 庭園都市蘇州観光 【世界遺産】ぐう園、相門埠頭、世界遺産】京杭大運河蘇州段散策、蘇州特産の刺繡研究所 無錫へ戻ります 夕食は無錫名物スペアリブなどの『無錫料理』をお召し上がりください。</p> <p style="text-align: right;">「無錫 泊」</p>
	無錫発 南翔着 南翔発 上海着	朝 昼 午後 夜	<p>南翔へ。途中、千灯古鎮散策 着後、南翔老街散策と小籠包の本場・南翔小籠包をどうぞ 中国を代表する大都市・上海へ 上海市内観光 【下町風情の豫園商城、モダンな新天地散策、名産シルク店と健康寝具店のお買い物】 夕食は名店「巴国布衣」にて四川名物の変面ショーと四川料理をどうぞ</p> <p style="text-align: right;">「上海 泊」</p>
3	上海 西塘 烏鎮 杭州	朝 昼 午後 夕刻 夜	<p>上海市内観光 【租界時代の建物が残る外灘、プロムナード多倫路文化名人街、工芸品と茶芸店でのお買い物】 全聚徳にて北京ダックの昼食後、西塘へ 西塘古鎮散策後、烏鎮へ 烏鎮西柵観光【叙昌醬得園、亦昌治坊、水上マーケット】 烏鎮両輪の夕食後、ライトアップされた街並み散策 杭州へ 着後、ホテルへ</p> <p style="text-align: right;">「杭州 泊」</p>
4	杭州 杭州発 関西空港着	朝 16:40 20:10	<p>杭州市内観光【世界遺産】西湖湖畔散策、西令印社、六和塔】 杭州名物トンポーロウ料理の昼食 空路、ANA直行便にて帰国の途へ 通関手続き後、解散となります</p>

* ツアーはクラブツーリズムより提供され、詳しい情報はホームページまでご確認ください。

*当季のイベントのオススメ

春の光は無限で、まさに最も美しい人間の4月に、周莊は口マンチックな風車シーズンを迎えた。色とりどりの風車が風に乗って回り、風鈴が軽く鳴り、花の海と互いに引き立て合つて、一面の美しい景色が見える。紙箱王風車学堂で自分だけに属する風車を手作りすることもできる。南湖棧道の前で、風車の壁と写真を撮つて、風車が語つている周莊の春の話を聞くことを忘れないでください。



①周莊水郷風車シーズン

2020年4月 蘇州昆山市周莊鎮全福路

早春の2月、万物はまだ暖かい春風を待っている時に、梅の花はひとつと咲いている。南京に位置する中国四大梅の名所の一つの梅花山では、毎年2月中旬に国際梅花祭が開催される。400品種近くの4000本余りの梅の木が満開している間に、赤い雲が一面に広がり、人々の心を震かせる。



②南京国際梅花祭



2020年2月下旬-3月下旬
南京市玄武区石象路明孝陵景勝地内

④瘦西湖万花会



4月は揚州の最も美しい時期で、瓊花、シャクヤク、牡丹、アジサイなどの花が咲き誇る。宋代から現代まで続く瘦西湖万花会も毎年4月に開催される。その時、瘦西湖景勝地内の20万本余りの花卉が咲き乱れ、笑顔で観光客を迎え、古城揚州は花の海の中で一味違う趣を見せてくれる。

2020年4月 揚州市邗江区大虹桥路瘦西湖景勝地



①周莊水郷風車シーズン

2020年4月 蘇州昆山市周莊鎮全福路

②南京国際梅花祭



④瘦西湖万花会

2020年4月 揚州市邗江区大虹桥路瘦西湖景勝地



2020年4月5日 泰州市姜堰区溱湖国家湿地公園

⑤溱潼会船祭

溱潼会船祭は1000年以上前の宋代に始まった伝統的な民俗行事である。岳飛の岳家軍は金軍と溱湖で戦い、地元民は清明の節句に船を走らせて戦死將兵を弔い、長い間、水郷の風習となった。毎年、清明の節句には一万人以上の人々は船を走らせてここに集まり、そのシーンは非常に壯觀である。



⑥徐州花朝祭

花朝祭は百花の誕生日で、毎年この日は花を見て興を添えて、その後伝統的な祝日になった。徐州花朝祭は漢文化景勝地で開催され、伝統文化祭に根付かせ、観光客に花見の合間に漢代の文化の奥底を感じさせる。

2020年3月下旬
徐州市漢文化景勝地



⑦秦淮灯会

南京の春はちょうどイルミネーションを見るいい時期で、1700年以上の歴史を持つ秦淮灯会は南京の特色のある習俗と伝統的な手芸を表した。夜になると、地元民に付き従つて夫子廟と秦淮河畔に行つて、秦淮河の一味違う風情を体験しても快適さを失わない。



2020年2月-3月
南京市秦淮区夫子廟秦淮風光带

淮安 中国運河の都

里運河は全長が 32 キロメートル、沿岸の風景が美しく、人文観光資源が多く、淮安の千年の運河文化を載せて、昔の淮安水運文化の隆盛を裏付けた。



蘇州拙政園

拙政園は蘇州古典園林の代表作であり、1997年に世界文化遺産に登録された。庭園全体は水を中心にして、水が山をぐるぐると巡り、東屋は精巧で、江南水郷の特色が濃厚である。

場所：蘇州市姑蘇区東北街 178 号